

「JFA 第 49 回全日本 U12 サッカー選手権大会」報告書

山口県サッカー協会ユース審判員 西村 優吾

【日程】 2025/12/26(金)～2025/12/29(月)

【場所】 鹿児島ふれあいスポーツランド、鴨池補助陸上競技場

【活動・研修内容】 事前 zoom 研修会 2 回(11 月 12 日、12 月 10 日)

【第 1 回事前研修会】

スケジュール確認から始まり、フェアプレー・リスペクトとは何かについてグループディスカッションや講義を通して理解を深めた。まずどんな時にグリーンカードを提示するかという問に対して 4 人で意見を出し合いその後全体で共有した。またグリーンカードの意義についての講義を行いそれによる成果も知ることができた。

次にテクニカルとして今のサッカーで求められていることや大会テーマについて確認をした。今年のテーマは「サッカーの 4 局面と球際を理解したレフェリング」であった。

【第 2 回事前研修会】

まずは前回の事前研修会の内容をおさらいしてから今回の内容に入った。前回では課題としてサッカーの 4 局面と球際についての動画の視聴、また 4 局面(攻撃→守備を除いた)に関する具体的な動画を視聴し、どんなファウルが起こりやすいか、それを見極めるために審判員として考慮することや意識することはどんなことかを考えることがあげられていた。課題をもとに 4 人でそのテーマについて話し合い、全体で共有した。攻撃局面では遅れた守備と止めたい心理による接触や掴むというファウルが多くそこで気を付けるべきこととしてアフターファウルへの意識、次の争点への予測、角度やポジショニング、などが挙げられた。守→攻の局面ではカウンターの阻止(ドグソやスパ)、アフターファウル、ホールディングやブッシングなどのタクティカルファウルが多く、気を付けるべきこととして予測やスプリントのスピード、視野の確保やアドンバンテージの適用などが挙げられた。

最後に守備局面ではアフターファウルが最も多く、ホールディングやブッシング、無謀なタックルやスライディングなどが挙げられ意識することとして予測やポジショニング、接触の予兆を掴むということが挙がった。審判員としての行動についての話もありオンザピッチはもちろん生活面や食事などに関する体作りも大切だというお話をあった。

また公式記録や当日スケジュールについての確認も行われた。

【12 月 25 日】

14 時チェックイン、15 時集合。その後バスで川商ホールへと移動しワークショップの打合

せ、練習を行った。17時からリスペクトワークショップに50分程度参加し、リスペクトとは何かやリスペクトのある具体的な行動について深めた後バスでホテルまで移動した。19時から夕食をとり20時から夜のワークショップがスタートした。夜のワークショップでは技術との協調として前回大会の選手やチームデータから大会の傾向を知った。またデータをもとに大会として求めたいことや審判員として必要なことを確認した。その中でファーストファウルの重要性や4局面における選手の意図の汲み取りやそれに応じたポジショニング、アクチュアルプレイングタイムを伸ばすという意識、予期予測や適切な距離・角度をとることが重要ということを学んだ。Good seed makes a good crop

【12月26日】

6時朝食。朝食後2台のバスに分かれて鹿児島ふれあいスポーツランドへ移動。

【割当試合】

1次ラウンド第2戦 kickoff13時15分 match No.20

アフェラルセ四日市 U-12(三重県)1-3 ツエーゲン金沢 U-12(石川県)

○良かった点

- 前半の修正点を後半に生かすことができたこと。(特にジャッジの面に関して)
- ロングボールに対しての動き出し

○課題

- ファーストファウルの基準のあやふやさ
- ボールの移動中などでの情報収集の少なさ
- 角度の作り方

○フィードバック内容

ファウルの基準を明確にするために見るだけでなく見極めることが大切。そのためには接触部位や強度まで見なければいけないのでポジショニングや予測、アングルの取り方がとても重要。この試合では予測が後手に回っていたから先に首を振って情報収集して動きだしをよくすることが必要。前半は少し荒れている試合でジャッジの基準が明確でなかったが後半ではベンチから文句ができることがなかったので後半への修正力は素晴らしい。後半の動きや基準を前半からできるとよかったです。

17時バスでホテルへ移動後すぐに夕食を取った。夕食後夜のワークショップが開かれた。内容はPRの福島孝一郎さんによる講義。印象に残ったことは失敗はいくらPRの福島さんでさえもたくさんあり、Jリーグでもたくさん失敗してきた経験がある。ただ失敗しただけで終わりにするのではなくそれを生かすことが大切。また仕事との両立の難しさは常に付きまとう。ミスを受け入れ自分に正直になり恐怖心を乗り越えてこそ成功があるので感謝、初心、謙虚。この3つを忘れてはいけない。また目の前の試合や選手にしっかり向き合うようになってから自分のジャッジに納得感が出てきた。

諸連絡として公式記録ミスがあったのできちんと確認すること。ベンチマネジメントに関して監督がピッチに乱入するという事象が起きたためそのような行動が起きたときの対処法を競技規則でもう1度確認することが必要。また負傷によって救急車が来たのだけがの重大さを確認することやケガの対応を主審と補助で協力する。試合前の打ちあわせや準備を最大限用意しておくことが必要。23時30分就寝。

【12月27日】

6時朝食。朝食後2台のバスに分かれて鹿児島ふれあいスポーツランドへ移動。

【割当試合】

1次ラウンド 第3戦 kickoff11時30分 match No.67

ヴィッセル神戸 U-12(兵庫県)0-1 ベガルタ仙台ジュニア(宮城県)

○良かった点

- ビルトアップに対してのポジショニング
- タッチラインや逆サイドまで行くなど横幅を取ることができたランニング

○課題

- FKマネジメント
- 遅延行為に対する対処
- オフサイドを見に行くための予測からのポジショニング

○フィードバック内容

試合全体としてジャッジの一貫性やポジショニングがよく、試合にマッチしていたレフェリングだった。FKマネジメントでは判断を早くすることでスムーズに進めることができるので手際をよくすることが必要。試合を通して素晴らしいレフェリングだった。

16時30分バスでホテルに移動後夕食。夕食後、夜のワークショップを行った。

内容はある試合でオフサイドが起きたが主審はオンサイドとしていた。ここで補助審判が介入し現場はオフサイドの判定へと変更。そのような場面をもとにどのようにすればオフサイドを見ることができるか、やこの場面の対処法(この場面では主に補助審判の役割)に関して議論、確認が行われた。結論として補助審判はフィールドの判定に介入することができないので主審が責任をもってジャッジすることが必須。またオフサイドを判定する際に大切なこととして常に気づきを入れ、戦術理解や予測を行いそれに見合ったポジショニングを取ることが必要。その後準々決勝以降を担当する6人の審判員が発表された。24時就寝。

【12月28日】

6時朝食。朝食後バスで鴨池補助陸上競技場へ移動。

【割当試合】

ソレッソ熊本 U-12(熊本県)3-1 F.C.アンフィニ(岐阜県)

○良かった点

- 前半に幅を取っていたこと
- 後半への修正力
- 選手やベンチに対しての声かけ

○課題

- どちらが先にファウルをしたのかを見ることができなかった。
- 幅を取りすぎて事象が遠くなってしまっていた

○フィードバック内容

試合を通しての声かけが素晴らしい。また最後に負けたチームの監督やコーチが握手をしにきてくれたのがこの試合のすばらしさを象徴している。警告を出したシーンではその理由付けがとても大切。またオフサイドを見つつタッチジャッジやファウルを見ないといけないのでその塩梅は考えながら動かなければならない。前半は中央で巻き込まれることがあったが後半は少なかったので修正力が素晴らしい。

準決勝終了後バスでホテルへ移動。移動後夕食。夕食後最後の夜のワークショップを行った。内容はグリーンカードについてとFKマネジメント。グリーンカードについてはリスクの感性を大切にしてだすことが必要であり機械的に出すのはよくない。FKマネジメントについては6stepについて初めて知ることができた。壁を作成するときの作り方についての議論で後ろ向きで歩幅をとる人や前向きに歩幅を取る人がいるのが分かった。その点ではボールを監視できる人(副審や第4審判)がいる場合など場合分けをする必要がある。1人制審判では監視する人がいないので平行移動を使いボールを監視しつつ壁をコントロールすることという新しい方法を学んだ。また壁を作成した後のポジショニングについては壁のハンドも見に行きたいがゴール前も見に行きたいので基本的には中にいることがよい。またキッカーの利き足や種類によってポジショニングを変えることも必要。24時就寝。

【12月29日】

決勝戦を観戦後、帰宅。

【今回の研修に参加して】

まずは全国大会という大きな舞台でいい経験ができたと思います。1番感じたことは全国レベルとはまだまだ差があることです。全国の審判員は審判に対しての熱意や知識、経験が自分よりも審判員としてはもちろん、人としてもレベルが高いなと感じました。自分も全国レベルの審判員になるためには1つでもレベルの高い試合に挑戦し、競技規則などの知識や経験などを積み、自分のレフェリングを全国基準で考えるということが必要だと感じました。また最終選考まで残ることができたのはとても嬉しかったです。しかし決勝を観戦していると自分もあの舞台で笛を吹きたかったととても感じました。この期間は審判員としての意識がとても高まった期間でした。これからは2級昇級に向けて11人制の審判を学び、また全国の舞台に立てるよう頑張ります。このような経験を用意してくださった皆様、ほんとうにありがとうございました。

